

# 環境報告書に対する監事監査意見書

## Auditors' review

当研究所では、環境報告書を開示する内容の信頼性を高めるために、当研究所の監事による監事監査の一環としての環境監査を経て環境報告書を発行しています。

監事は、環境活動を取りまとめた環境報告書は理事長はじめ幹部の環境に関する業務執行の結果であるとの認識のも

と、年間を通じた環境監査を実施しており、環境報告書発行にあたり環境監査結果を環境報告書に対する監事監査意見書としてまとめています。

独立行政法人農業環境技術研究所「環境報告書2006」に対する監事監査意見書

平成18年12月13日

独立行政法人農業環境技術研究所  
理事長 佐藤洋平 殿

独立行政法人農業環境技術研究所

監事 松井 武久

監事 堀 雅文



松井、堀両監事は、独立行政法人農業環境技術研究所作成の「環境報告書2006」について、業務監査の一環として行っている環境監査の結果と合わせて監査を行い、協議の上本監事監査意見書を作成しました。

以下のとおり報告いたします。

### 1. 環境監査の目的

当研究所はミッションが示すとおり、事業そのものが環境に関する研究であります。よって、当研究所の作成する「環境報告書2006」は、理事長・幹部はじめ全職員の業務執行の結果そのものであると認識し監事監査の対象としました。監査の目的は、同報告書に記載されている内容の網羅性、正確性、実質性、中立性について、独立した立場から監査しその結果を報告することです。

### 2. 監査項目と監査方法

業務監査の一貫として、環境マネジメントシステムの有効性・機能性、法令・規則の遵守状況、等を、年間を通して、関連の会議出席、重要資料閲覧、現場往査の方法で監査を行っています。なお、同報告書については、その内容（環境マネジメント、各種環境パフォーマンス数値等）と基礎になる関連資料および業務監査の結果との整合性・正確性、妥当性について監査をしました。

### 3. 環境監査の結果

- (1) 同報告書の整合性・正確性についての監査結果は、正しく示していることを認めます。
- (2) 妥当性についての監査結果は、変更・追記すべき重要な事項は認められません。
- (3) 総評

環境報告書についてその信頼性向上を図る目的で、環境省から平成18年3月に「環境報告書の信頼性を高めるための自己評価の手引き（試行版）」が公開されました。報告書作成担当部署は報告書の構成を企画する段階からその資料を参考に検討を行い、加えて内部監査部署（作成部署とは別の部署）がチェックリストに基づき評価を行い、報告書を作成し理事長はじめ関係先へ報告を行いました。その結果、総じて昨年よりも内容の充実および信頼性が向上したと評価します。

しかし、民間企業、他独立行政法人の優れた環境報告書に比較すると、改善の余地は多々見受けられます。例えば、省エネルギー計画の充実（改善項目と目標値）、廃棄物削減計画の充実（3R）、研究成果の社会への活用等です。今後、回を重ねる毎に、環境マネジメントが進化し、その結果である同報告書が充実することを期待しています。

以上